

受講番号 18063 学校名 春野中学校 氏名 千頭 まき

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年3組 生徒数 16 名
 科目名 2年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW CROWN 2

クラスの様子・特徴

本校では2年生から1クラスを前半・後半の小集団に分けた形態で授業を行っている。前半は16名(男子8名、女子8名)のクラスで落ち着いた雰囲気の中ほとんどの生徒が前向きに取り組めるが、全体的にリーディング時の声が小さく、活力が感じられない。

問題の確定

CRTにおいて表現の能力が弱いという実態から表現力の基本となるリーディングを通じたインプットが必要であると考えた。

予備調査

A 授業の観察

・全体的に授業には前向きに取り組めるが受身の態度が見られる。・リーディング練習における声が小さい。・文字と音がつながっていない生徒が数名いる。

B 生徒による授業評価

アンケート結果から、会話力・語彙力・読解力など基礎・基本を中心とした全般的な力をつけたいと思っており、長文読解・語威力に課題を抱えている生徒が多い。

C 学力データ

CRTの分析からは「考えや気持ちを正しく伝えること86」、「英文の内容を正しく伝えること86」、「伝えたい内容を考え正しく書く88」の点で特に課題が残る。

リサーチ・クエスチョン

文字と音が結びついていない生徒たちは教科書を音読できるように、教科書を音読できる生徒たちはリズムやイントネーションを意識し内容を考えた読みが出来るようにするにはどのようにリーディングの指導・工夫をしたらよいか

仮説・実践・検証

仮説1

リーディング練習の中でフォニックスを導入することで音と文字が結びついていくのではないかと。

実践1

warm upの時間に短時間で出来るワークシートを用いた練習や新出単語練習時にフラッシュカードを用いたフォニックス練習を組み込んでいった。

検証1

warm upでの短時間のフォニックス練習は皆が参加出来る時間であった。また、絵などを頼りに発音される前に予想して文字を記入し、その後聞いた発音からスペルの確認が出来ている生徒たちもいた。文字を見ながら音が出る光景が見られだし、新出単語導入時にその成果が見られるようになってきた。アンケートでは「フォニックス練習が読めるということに役立った15名、あまり役立たなかった1名」という結果であった。

仮説2

リーディング練習の量を工夫して増やすことで読む力につながっていくのではないかと。

実践2

新出単語は音読・意味をペアで練習できるワークシートをLESSONごとに渡し、繰り返し練習させた。CDについてや一斉での単語・本文音読練習においても、2度、3度繰り返し量を増やした。本文リーディング練習前には、センテンスを短く区切り大まかな内容理解を全体で確認した後音読練習を行った。またページごとにリーディングタイムを決めて練習させた。

検証2

取り組みを通して生徒たちの意識の中での変化があったようである。アンケートから「学習で積極的に取り組んでいること」では、1番に読むことを上げている生徒が4名から8名になり、「苦手なこと」として読むことを最後に上げている生徒が3名から6名になっていた。また「教科書が音読できる・なんとか音読できる13名、読み方を頼りに音読できる1名、ほとんど読めない1名」と読みへの意識が高まり、読める生徒も増えている。

仮説3

ターゲットセンテンスのディクテーションテストを継続して行うことは、文字からの認識にもなり、基礎・基本の定着につながるのではないかと。

実践3

各LESSONごとに出てくる基本本文を5文程度書いた紙を始めに生徒たちに渡し、そのLESSON終了時にディクテーションテストとして行った。家庭学習として位置づけている自主学習ノートに練習させた。

検証3

家庭学習を通してディクテーションの練習をさせたが、学習の中で苦手なこととして「書くこと」を上げている生徒は8名と意外と多かった。音から文字を認識し、それを正確に書くことについてはこれからの課題である。

研究の成果

フォニックスを導入することで、文字と音がつながっていくのを実感できた生徒は多かったようである。また、簡単なもので短時間で取り組めるものであったため、全員が参加でき、音を聞く前に予想して文字を記入したりと各自工夫した取り組みも出来ていた。リーディング練習の量を工夫して増やす取り組みにおいては、タイムを設定したり、デモンストレーションやプラス評価を入れていくことで練習の声も大きくなってゆき、彼らに読めるという自信も出てきたようにアンケート結果からも思う。

今後の授業改善の課題

取り組みを通して読むことに対する意識は高まり、教科書が読める生徒も増え授業に対する態度にも積極性が見られだした。また、DO IT TALKにおいては暗誦表現なども取り入れ、リズムや抑揚等にも意識させてきたが、これは来学期への課題である。仮説3での取り組みは家庭学習が主になっており、生徒自身に任せた所が大きかった。今後の課題として練習経過、状況などを途中で確認していく取り組みが必要であると感じた。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-894-3341

電子メール